

ミュージカル牧場新聞

ツクイサンシャイン川崎宮前のみなさんこんにちは、よこはまミュージカル牧場です、またこちらに来ることができてとても嬉しく思います。

前回同様、にぎやかに送りしたいと思います。

「勸進帳(かんじんちょう)をやります！」

さてさて、本日皆様にご披露するのは…

歌舞伎で有名な「勸進帳」というのをやってみようと思います。

ご存知ない方のために…

どんな話かという事です…

平家を倒した源義経と家来の弁慶、その名声もつかのま、鎌倉の頼朝に追われる身となりました。義経の頼りは東北の平泉、しかし、頼朝は全国津々浦々に関所を設けて義経を捕らえようとします。

逃避行を続ける義経と弁慶の一行は、「山伏」(旅をする修行僧)に変装して安宅の関

(今の石川県小松市のあたり)にやってきました。関を守っていたのは当時の大名、「富樫」、

富樫は山伏姿の義経と弁慶を見とがめます。弁慶は「われらは東大寺を再建するための

寄付を募って国々をまわっているのだ」と言い張ります。

「富樫は」それであれば、寄付を募るときの書状『勸進帳』を持っているであろうからそれを読め」と言います。

勸進帳など持っていない義経一行でしたが、弁慶は臆することなく、「勸進帳」を(想像で)読み上げます。

その堂々とした読みっぷりに感じ入った富樫は(実は真実を知りつつも)義経一行を通します。(ここ、いい場面)

…というわけでミュージカル牧場版の「勸進帳」をやってみます

さてさてどうなりますでしょうか、歌舞伎の神様に怒られないように一生懸命やってみようと思いますが、至らぬ所はご容赦ください。



石川県小松市にある銅像 (左から義経・弁慶・富樫)



さらに、もう一本

さらに今回はもう一本、昔話の「わらしべ長者」です…誰もが知っているこの話ですが、なんと「今昔物語」に原話があるそうです。ちよつとその一節を引いてみましょう。

其の後、哀びける僧の房に寄て、物を乞て食て出づるに、大門にしてけつまづきて低ぶしに倒ぬ。起上る手に、そぞろににぎられたる物有り。見れば、菓の筋也。

なるほど、この調子で読み通すのは大変そうです。

…というわけで、ミュージカル牧場開演です！

みんなで作るミュージカル!

今日はみんなで歌を歌って「ミュージカル」を作りたいと思います。歌は、「真つ赤な太陽」です。

「真赤な太陽」



まっかに燃えた太陽だから

真夏の海は恋の季節なの

渚をはしるふたりの髪に

せつなくなびく甘い潮風よ

はげしい愛に灼けた素肌は

燃えるこころ恋のときめき

忘れず残すため

まっかに燃えた太陽だから

真夏の海は恋の季節なの

■よこはまミュージカル牧場について

2008年夏に創設、「誰にでも楽しんでもらえるミュージカル」を考えて、作品を作りはじめました。最初はとても苦労しましたが、2010年頃より福祉施設などでの公演をスタートしたところ、ありがたいことにとっても喜んでいただけるようになりました。2016年には公演100回を達成しています。

古今東西の様々な題材を、カラフルな歌とダンスで彩りながらお送りするパフォーマンスはどんな人でもたちまち楽しい気持ちにさせると好評です。また「よこはま」の名前のとおり、横浜の埋もれた民話や伝承を掘り起こしてお届けするコーナーもあります。